

2022年5月31日

各 位

会 社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社
代 表 者 名 代表取締役 芝 宮 孝 司
社長執行役員
(コード番号：6616 東証プライム市場)
問 合 せ 先 執行役員 前 川 貴
経営企画室 室長
(TEL. 03-6222-2875)

2021 年度「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

この度、『コーポレートガバナンス・ガイドライン』の運営指針に基づき、2021年度における当社取締役会の実効性を分析・評価いたしましたので、その結果の概要を以下の通り開示いたします。なお、当社の『コーポレートガバナンス・ガイドライン』につきましては、当社のホームページにて公表しておりますのでご参照ください。

『コーポレートガバナンス・ガイドライン』

https://ir.torex.co.jp/ja/vision/governance/main/02/teaserItems1/00/linkList/0/link/20211215_Corporate_Governance_Guideline.pdf

I. 分析・評価方法

当社取締役会は、2021年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2022年4月に取締役会事務局が作成した取締役自己評価調査票に基づき、社外を含む全取締役9名（監査等委員を含む）が自己評価を実施し、その結果について2022年5月の取締役会で報告があり、議論を行いました。

II. 評価項目

取締役自己評価調査票の主な項目は以下のとおりです。

1. 取締役（会）の役割・責務
2. 取締役会等の機関設計・構成
3. 取締役会の実効性・活性化
4. 任意の仕組みの活用・連携
5. ステークホルダーとの対話・開示

Ⅲ. 分析・評価結果の概要

各取締役による取締役会の実効性にかかる自己評価の結果、上記の各評価項目においておおむね適切であることが確認されました。

取締役会の規模、知識・経験・能力は、公正かつ実質的な議論をする上でバランスよく構成されており、事業環境の変化に対応した経営戦略や持続可能な生産体制の構築等に関する建設的な議論がなされ戦略的な方向付けが行われたことから、「取締役（会）の役割・責務」「取締役会等の機関設計・構成」について高い評価となりました。

この評価結果を踏まえ議論した結果、2021年度の実効性は「おおむね有効であった」と結論付けました。

Ⅳ. 取り組むべき課題

当社取締役会は、取締役会の実効性を更に高めるために取り組むべき課題として、事業の課題やリスクの評価、それらへの対応策に関する議論、及び指名報酬委員会から取締役会への情報共有のさらなる充実を図ることが重要との認識を確認いたしました。

Ⅴ. 今後の対応

当社取締役会は、これらの課題について議論を重ね、取締役会の実効性の向上を図り、これからも中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

以上